イグサ砧苗床の被覆物による雑草防除および乾燥害防止

中原隆夫・森藤信治・佳吉 強・井上恵子（福岡県農業総合試験場筑後分場・福岡県農業総合試験場）

Takao NAKAHARA, Nobuharu MORIFUJI, Tsuyoshi SUMIYOSHI and Keiko INOUE: Weed Control and Drought Prevention by Mulching on Upland Nursery of Mat Rush

一方、もみがら被覆による雑草抑制効果は稲わら被覆の場合より劣ったが、3月下旬の除草剤散布との組合せにより、十分な雑草抑制効果が得られた。

2）砧苗床土壌の含水比 暗天が5日以上続く時期の地表から5 cmの深さの砧苗床土壌の含水比を第2図に示した。ほとんどの地域で、砧苗床土壌の含水比は無被覆の場合よりも低く穂状化を防ぐ役割を果たした。被覆による乾燥防止の効果が示された。

3）砧苗の生育 8月の採穂時の生育を第1表に示した。1984年の糞わら被覆区はいずれも基準数が多く、生育は良好であった。また、1985年の糞わらおよびもみがら被覆区は基準数は筋前区かやや少ない区もあったが、乾燥は筋前区と同程度かそれ以上であった。

以上の結果から、砧苗床を糞わら150kg/haで被覆することにより、雑草を抑制し、乾燥害を防止できるが、もみがらの効果はやや劣ることが明らかになった。

第2図 砧苗床土壌の含水比（0～5 cm）

第1表 砧苗の生育

<table>
<thead>
<tr>
<th>区</th>
<th>被覆</th>
<th>除草剤散布回数</th>
<th>1株茎数</th>
<th>1株枝節上部乾物重量</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>無</td>
<td>71</td>
<td>91</td>
<td>66</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>糞わら</td>
<td>93</td>
<td>107</td>
<td>78</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>もみがら</td>
<td>97</td>
<td>100</td>
<td>100</td>
</tr>
</tbody>
</table>

第1図 雑草発生量（1984年、1985年の平均）